

登録コード	HM136200	開講年度	2026			
授業題目	運動生理学特論				担当教員	増木 静江 他
英文授業名	Exercise Physiology				副担当	森川 真悠子
単位数	3	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンベンション	非該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)
	2026HM医学分野加，2025HM医学分野加，2024HM医学分野加，2023HM医学分野加					
	【研究科共通_2024年度以前から対象】高度専門職業人・研究者として、科学・技術を発展させるための健全な倫理観				⇔	なぜ、運動時に体温が上がるのか？なぜ、運動時に血圧が上がるのか？理解できるようになる。
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	ヒトにおける筋血流調節、血圧調節の特殊性について理解できるようになる。
(2)詳細/Detailed information	運動時の体液・循環調節について最新の研究と共に解説する。					
(3)授業の概要/Overview of course	運動時の筋血流は安静時の最大20～30倍に上昇する。この運動時の筋血流調節の特殊性について講義を行う。また、ヒト・実験動物で個体レベルの研究結果から、運動時の血圧がどのように維持されているか講義を行う。さらに、暑熱環境下運動時の血液量調節機構とその生理作用、脱水回復時の水分塩分摂取機構に関する講義を行う。					
(4)授業計画/Course plan	1. ヒト運動時の筋血流調節の特殊性について(第1回-第6回) 2. ヒト・実験動物における運動時の循環調節について(第7回-第12回) 3. 暑熱環境下運動時の血液量調節機構とその生理作用について(第13回-第18回) 4. 脱水回復時の水分塩分摂取機構について(第19回-第23回)					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	レポートを課す。 運動時の筋血流調節について説明できれば「可」，さらに暑熱環境下運動時の血液量調節機構について説明できれば「良」、筋血流調節・血液量調節のヒトにおける特殊性について説明できれば「優」，それらを自ら行う博士論文研究と関連づけて説明できれば「秀」とする。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	ヒトにおける筋血流調節、血圧調節の特殊性とは何か？常に意識し講義に臨むことが期待される。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	担当教員が随時、質問を受け付ける。					
(8)授業の形式/Course format	講義（スライド・ビデオを併用）					